

提 案 概 要

実施期日	8月2日(火)
部会名	中学校 外国語部会

1 提案テーマ 『4技能を取り込んだ、ウォーミングアップ場面で使えるreview活動』

2 単元(題材) すべての言語材料

3 学年 全学年

4 平成27・28年度神奈川県中学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

① 言語活動の充実と言語材料の定着を図る指導の工夫・改善

4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成するための言語活動の充実、語彙や文法の習得を言語活動と効果的に関連付けた指導の工夫・改善

5 学習指導要領との関連

第2章 第9節 外国語 第2 各言語の目標及び内容等 英語 2 内容(2)

(2)言語活動の取扱い

ア(ア)実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を行うとともに、(3)に示す言語材料について理解したり練習したりする活動を行うようにすること。

6 実践に向けての課題意識

本校の生徒は、授業に前向きに参加し、行事などにも協力して熱心に取り組む。互いを思いやり、高め合っている風土も確立している。また、規範的な行動も身につけており、自分たちで考えて行動することができる。一方、家庭学習が定着していない生徒や、和やかな雰囲気の中で主体的に学習に取り組むことができない生徒も多く、学習面での伸び悩みが感じられる。そこで、興味をもって授業に臨み、継続的な家庭学習により既習の学習内容が定着していくように、授業の中でも計画的に復習を組み込んでいる。また、生徒が到達目標を意識しながら意欲的に取り組める教材作りを心がけ、自ら進んで学習しようという動機づけができる指導の工夫を意識した。

7 実践の概要

既習事項の定着を図る帯活動として、毎時の授業の始めの5～10分を「活動時間」と位置付け、「コミュニケーションワークシート」を用いた活動を行った。4技能の一つずつにフォーカスした活動を実践してきたが、4技能の統合的な活用を目指し、「話す・聞く」活動を「書く」活動へとつなげる工夫をした。生徒が意欲的に取り組めるような場面を設定し、活動のルールを明確にすることで一人ひとりの生徒が多く多くの生徒とやり取りができるようにした。

どの言語材料を扱うときも、初回にガイダンスを行い、デモンストレーションを行ったうえで活動に入ることにより、英語に対する苦手意識が強い生徒や、学習面で課題のある生徒が、スムーズに活動に入れるように配慮した。また、活動中はできる限り英語を使ってコミュニケーションがとれるような工夫を心がけた。

8 成果と課題

英語が得意な生徒は、毎回の指定された人数を超えて多くの生徒とやり取りをするなど、毎回の活動を楽しみにしている。一方、英語に苦手意識がある生徒は、「話す・聞く」活動には生き生きと参加していても、その日にやり取りをしたことを記録する場面では、正しい英文を書くことができないことも多いことから、今後も「話す、聞く」活動から「書く」活動へのスムーズなつながりを意識した指導の更なる工夫が必要である。

9 予想される協議の柱

- ・4技能の統合的な活用を目指した、「話す」ことと他の3技能とのつながりを意識した活動について
- ・「話す、聞く」活動から、「書く」活動へつなげるための具体的な実践について
- ・授業内でのコミュニケーション活動の評価について